

## 日本のトイレのこだわり

ライター：千葉尚志、松本佳吾、古梶秀一郎 エディター：野口萌

日本のトイレは単なる用を足すための無機質なものではない。洗浄機付きの便器、温かい便座など快適さを求めたものや、職人が丁寧に作り上げる精緻な便器まで多様性に富んでいる。特に公共施設のトイレの多くは清潔に保たれ美しく飾られている。その中でも抜きん出ているのが、東京都目黒区にある目黒雅叙園の「再現化粧室」だ。旧目黒雅叙園の名所であったトイレを改良し、技を凝らした造作、華麗な螺鈿、鮮やかな朱塗りの橋等で再現した豪華絢爛な化粧室だ。

「宴が終わった後もその余韻が冷めず、ほっと一息つける場所として特に美しく作られました。」と目黒雅叙園マーケティング部の根本佳奈さんは言う。これは、創業者細川力蔵の、来園者みなが快く過ごして欲しいという思いを体現している。また、細川は旧目黒雅叙園の化粧室の壁画を画家横山大観に依頼をしたことがあるらしい。依頼は断られたが、このことから彼の化粧室への装飾のこだわりと訪れる客への深い配慮が感じられる。

従業員の念入りな管理によって清潔に保たれ、化粧室内は派手な一方で落ち着いて過ごせるよう計らわれている。「再現化粧室は雅叙園のアクセントとなっています。だからこそお客様は思わず他人に話してみたくるのであり、事実、そういった噂を聞きつけて再現化粧室を一目見るために訪れる新たなお客様もいらっしゃるそうです。」

いったい、目黒雅叙園はどうしてこんなにも実用の域を超えたトイレの内装にこだわるのだろうか。

「全ては『思いやる気持ち』をもってトイレを美しく保つようにしています。また、雅叙園では化粧室の利用も含め、サービスの一環と考えています。」と根本さんは言う。快適で煌びやかな、日本はおろか世界にも二つとないようなこの「トイレらしくないトイレ」は、化粧室に見られる「思いやる気持ち」の最高の形であろう。

わざわざ時間を割いて訪ねてくれたお客を心ゆくまで最高の待遇でもてなす。根本さんが言うようにお客への「思いやる気持ち」がこの目黒雅叙園のトイレにまで貫かれている。

### **編集後記**

今回の取材を通じて普段何気なく使うトイレと向き合ってみることができた。トイレとは放っておくとどんどん汚くなっていくものであるのにも関わらず、並々ならぬ手間と労力をかけて清潔さを保ち、かつトイレの設計までにも配慮が深く巡らされているということを感じた。私たちが客となった時に、彼らにそのお礼としてすべき事はその豪華で清潔に保たれたトイレを綺麗に使うことだけだろう。(千葉尚志)